

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 6 6 回 相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 1 5 (直通)		
開催日時		令和 6 年 5 月 1 6 日 (木) 午後 6 時 3 0 分から午後 8 時 3 0 分まで		
開催場所		会議室棟 1 階 第 1 会議室		
出席者	委員	1 1 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 1 人 (こども・若者政策課長ほか 1 0 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 題 (仮称) 次期相模原市子ども応援プラン (母子保健分野) 策定について 3 そ の 他 (情報提供) 令和 6 年 4 月 1 日現在の保育所等利用待機児童数について 4 閉 会		

審 議 経 過

1 開会

中安会長の挨拶の後、次第に沿って進行された。

2 議題

(仮称)次期相模原市子ども応援プラン(母子保健分野)策定について

事務局から「資料1(仮称)次期相模原市子ども応援プラン(母子保健分野)の策定について」及び「資料2(仮称)次期相模原市子ども応援プランの基本理念について」の説明があった後、意見や質疑応答があった。

(永保委員)資料2の11ページ⑧について、0～2歳、3～5歳は「未就学児」と認識しているが、その下の未就学児とは定義が異なるのか。

(事務局)別のアンケートでの調査項目であり、対象者も別である。

(永保委員)続いて、13ページについて、本市の総合計画における基本理念で使用しているキーワードの重複は避けるとの説明であったが、なぜ重複してはいけないのか。重複してもよいではないかとも思う。

(事務局)いただいた意見は参考にする。

(横堀委員)資料2の8ページ、プレコンセプションケアを「わからない」と回答している人は、質問の意図が分からないという可能性もあると思う。計画には、誰もが理解しやすい内容で盛り込んでいけるとよい。続いて10ページ、⑤について、対象を10～17歳の幅で回答を取っているが、10歳と17歳では回答に質的な差が生じると思うので、回答をまとめてしまわず個別の調査結果があってもよい。最後に12ページ、⑩について、子どもを育てている現在の生活に満足とあるが、「満足」という言葉に様々な含蓄があるように思える。果たして何について「満足」と言えるのかについては、状況を丁寧に考えることが必要と考える。

(中安会長)資料2の12ページ、⑩について、「満足している」と「どちらかといえば満足している」の回答が約7割であるため、子育てに前向きとの説明であったが、残りの約3割は満足していない訳であるため、前向きという表現に注釈が必要ではないかと思う。

(竹下副会長)資料2の14ページ、「個性が大切にされ」とあるが、相模原市で言う個性とは、障害も個性の一つと捉えていることでよいか。また、「ひとりひとり」の書き表し方は、「一人ひとり」と表現に統一が必要ではないか。

(事務局)いただいた意見は参考にする。

(笹野委員)資料2の13ページと14ページ、13ページにまとめとして、個人の尊重や社会全体で支えるという要素があるが、14ページの基本理念(案)にそのつながりが見えない。特に「ひとりひとり」のフレーズに結びつかないと感じてお

り、子ども・子育て会議でどんな議論がなされたのか気になる。「ひとりひとり」の対象が子ども・若者であるなら、意味合いがすごく広がる。若者が「みんなと育つ」というのはどういうことか。

(事務局) 子ども・子育て会議で提示した基本理念(案)では、「ひとりひとり」や「みんな」のフレーズは出していなかった。子ども・子育て会議において、「ともに」、「つながり合う」、「支え合う」といったニュアンスの言葉が望ましいとの意見があった。

(笹野委員) 子ども・子育て会議を踏まえて、基本理念(案)を修正したことを承知したが、ここで言う「みんな」とはどんな意味合いであるのか。

(事務局) 子ども・若者同士もあれば、地域や社会の人達と一緒にという意味合いもある。前回、ブレインストーミングを行った際にも出てきた言葉でもあり、どんな意味合いでも捉えられるように「みんな」と表現した。また、「ひとりひとり」の対象は子どもだけでなく、若者も含まれる。「若者」は中高生や大学生も含むと考えており、その年代が「みんなと育つ」という意味でもある。

(笹野委員) 基本理念(案)を否定しているのではなく、伝え方に違和感がないようにしてもらいたく、意見を述べた。子どもはともかく、若者が育つという表現にした時に、若者が育つことを自分ごとと捉えられるだろうか。その視点も必要。足りない場合は、説明で補う。相手に基本理念の思いが伝わるのが重要。その上で、私は良いメッセージだと思う。「みんな」という言葉が特に良い。地域福祉計画が策定されたのだが、その計画においても、子どもを大事にする。子ども時代から地域とつながることを目標に位置付けしている。相模原市の次期計画と整合を図れるものになっている。

(大貫委員) 地域とつながるという視点は、私も共感している。地域と子どものつながりを強化したい。少子高齢化で、地域の行事がなくなっている。例えば、昔遊びの教室を開催しても、教える相手(子どもたち)がいない。

(井上委員) 資料1・2をとおして、母子保健という言葉が気になっている。この言葉は、今後も使用するのか。また、子どもたちの郷土を愛する心の育成等から子育てに繋がっていくような施策があってもいいし、行政の相談部署も虐待に至らないまでも、またひとり親家庭でなくても、気軽に相談できる場があればいいのにと感じている。それと、地域の関わりについて、学校に落とし込むと、現在、学校では教員の働き方改革が進んでおり、例えば部活動は多くて週3日、17時で終わることとなっている。子どもにとっての学校の拘束時間は以前より少なくなっており、その分を地域活動できたらいいなと思う。

(事務局) 母子保健は、法で位置付けられている言葉であり、今後も使用していく。ただし、委員の言うとおりの、様々な事情の家庭があるので、表現の仕方など、できる限りの配慮はしたい。

(中安会長) 居場所や相談支援については、行政だけでなく、学校、保育所など、他

にも色々あり、各々にネットワークがあるため、そこも活用できればいいのではないかと思う。

(内田委員) 「みんな」とは地域・行政・社会といった意味合いであり、子育てにやさしい相模原になるためには、課題は多くある。それを上手くまとめてくれている。

「みんな」が思っていることは一緒で、相模原の実態を表していると感じている。我々市民も子ども達に笑顔をもたせるために、より努力が必要だとメッセージを受け取った。

(中安会長) 非常に重要な意見である。また、この計画について、今後、何をもって成果とするかを決めていくことも重要である。

(品川委員) アンケート等をどう生かしていくかということが、基本理念よりも大切なことだと思う。理念が現実にそぐわない形にならないように。課題は色々と浮き彫りになったと思う。解決する場を作っていただきたい。

続いて、事務局から「資料3 (仮称) 次期相模原市子ども応援プラン (母子保健分野) の策定スケジュールについて」及び「資料4 子ども・若者の意見を聞く取組みについて」の説明があった後、質疑応答があった。

(内田委員) 資料4について、子どもの年齢は、何歳までを想定しているのか。

(事務局) ここで言う子どもは、18歳未満を考えている。小学校高学年くらいの子どもの理解できる資料を作成してまいりたい。

(内田委員) 出来た段階で、示してほしい。

(事務局) 検討させていただきたい。

(笹野委員) 資料4について、パブリックコメントと言うと、次期応援プランの幅広い分野に意見をもらうことになると思うが、子どもに求めるのは難しいと思う。イベント等において、計画の骨子等について、シール式アンケートを行うなどが、現実的ではないか。

(事務局) 既にこども家庭庁でこども大綱を策定する際に、子ども向けのやさしい資料を提示し、それに意見をいただいていたという前例がある。

(笹野委員) 子ども向けのパブリックコメントを行うという話だが、イメージが湧きづらい。原案を理解するのは難しいと感じてしまう。

(事務局) 他市においても事例がある。原案全てを子どもに見せて、意見をいただくのではなく、計画のエッセンスを分かりやすく示し、そこに意見をいただくものがある。

(笹野委員) 事務局に実施イメージがあるということで承知した。ぜひ、形式的にならないでやっていただきたい。

(井上委員) 他市の実施方法を踏襲するのか。

(事務局) 他市を参考に実施する。自治体毎に特性が違うので、そこを踏まえて実施

する。

(横堀委員) パブリックコメントは、確かに難しいと感じるが、やってみながら検討するのが良いと思う。一方で、困難を抱えた子どもは、元々社会に対して期待していないことから、声を上げない、上げにくいことが考えられる。一番聴きたい当事者の声が聴きづらい特徴がある。よって、どのように子どもから声を上げてもらい、市政に生かしていくのか、考えていただきたい。

(中安会長) 各委員から貴重な意見が多くあったと思うので、事務局は、検討してもらいたい。

3 その他

(情報提供) 令和6年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について

事務局から「資料5 令和6年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について」の説明後、各委員からの質疑応答があった。

(品川委員) 待機児童は、全て1歳児ということだが、0歳児の定員が空いている園もあるのではないかと。その場合、保育士の単価を調整する等して、1歳児の待機児童を解消することが可能ではないのか。

(事務局) 委員の提案も踏まえ、園の考えもあるので、園とコミュニケーションを密にしていきたいと思います。

(品川委員) 少子化が進むと、定員割れの園が出てくるのではないかと心配になる。

(内田委員) 今朝の新聞記事に、保育園の申し込みは過去最多とあった。この記事には一つ背景があると思う。育児休業は基本的に1年間が限度であるが、保育園の申請をしたにも関わらず、落選した場合は育児休業を延長できる。この仕組みを利用して、申請をわざと1園のみにして、育児休業の延長を狙う方もいる。このことから、国も審査を厳格化する予定である。この先は個人的な考えであるが、0歳児は、育児休業を取得する保護者が多いので、入園する子どもが少ない。肌感覚であるが、保育園に預けるのではなく、自分自身で育てたいと思う保護者が増えたように思う。保育園を希望する保護者全員が、育児休業を取れるのであれば、0歳児の入園はいらないかもしれない。

(永保委員) 現状の制度では、待機児童が無くならないのではと思う。今回の資料に定員充足率がないのだが、定員100%の時にようやく満足な経営できる仕組みだと思ふ。民間の経営者は、満足な経営が見込めない場合は、定員を下げてでも、100%に近づける動きをせざるを得ない。例えば、80%でも満足な経営ができる仕組みにしていただかないといけない。

(委員からの意見)

(内田委員) 近年の社会情勢を鑑みて、本会議をペーパーレスとするのはどうか。

(事務局) ペーパーレスが良いと考える委員や、紙の資料が良いと考える委員もいると考えられるため、各委員へ聞き取りをして、次回以降、個別に対応させていただきたい。

4 閉会

事務局より、次回は6月12日(水)を開催することを伝え、閉会した。

市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 委員名簿

(令和6年4月25日～)

番号	氏名	役職・推薦団体	出欠
1	おおぬき 大貫 きみお 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
2	ささの 笹野 あきお 章央	相模原市社会福祉協議会	出席
3	うちだ 内田 のりこ 紀子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
4	ながほ 永保 たかあき 貴章	相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席
5	たがわ 田川 つぐよ 継世	相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
6	よこぼり 横堀 まさこ 昌子	青山学院大学教授	出席
7	たけした 竹下 まさゆき 昌之	相模女子大学専務理事	出席
8	なかやす 中安 こうた 恆太	和泉短期大学准教授	出席
9	いのうえ 井上 なるこ 成子	相模原市立小中学校長会（中沢中学校）	出席
10	あいざわ 相澤 ゆみ 由美	相模原人権擁護委員協議会	出席
11	しながわ 品川 よういち 洋一	相模原市医師会	出席
12	たじま 田島 としき 敏樹	相模原市医師会	欠席